

平成26年度 JABTS 事業活動報告

- 1 編集委員会 谷口 信行
平成26年度は、雑誌出版に向け、委員会を開催し、7月には第3巻1号を発行した。平成26年2月には第4巻第1号を発行した。
- 2 財務委員会 矢形 寛
なし
- 3 教育委員会 田中久美子
・教育委員会企画 組織型を極める
硬化性腺症と放射状瘢痕(JABTS32)
悪性リンパ腫 (JABTS33)
・インターベンション研究部会との合同企画
乳房超音波ガイド下インターベンション講習会
第2回 (JABTS 32)
第3回 (JABTS 33)
- 4 広報委員会 橋本 政典
2014/10/8 MLドメイン変更
2014/11/27 英語ページUP(表紙のみ)
学術集会の終了処理など
学会誌のPDF版の掲載
事業計画の掲載
- 5 会則委員会 古川まどか
1 各委員会内規の作成
2 委員会活動に関する細則の改正
3 名誉会長、名誉会員、特別顧問等に関する細則作成
4 理事の任期、理事選挙に関する細則の改正と実行
- 6 国際委員会 代理 藤本 泰久
1. ネパールでの国際交流
平成26年11月にネパール派遣団第9班として計5名がネパールへ行き、チトワンにあるChitwan Medical CollegeにてCollege of Nursingの生徒たちに乳癌に関する講演を行い、また、B.P. Koirala Memorial Cancer Hospitalにて、ドクターとのカンファレンスを開催し3名が講演した。また、カトマンズではネパール外科学会に参加して、4名が招待講演をおこなった。
2. JABTS学術集会における国際委員会企画としては、JABTS32では「超音波検査から見たBI-RADS改訂のポイント」という企画名で、米国よりBeverly E. Hashimoto先生にコメンテーターとしてご参加いただき、JABTS33では「Current practice of thyroid ultrasound in Korea and Taiwan」という企画名で、韓国からHee Jung Moon先生と台湾からTien-Chun Chang先生にご講演いただきました。
- 7 乳腺用語診断基準委員会 渡辺 隆紀
2014.5 乳房超音波診断基準ガイドライン第3版出版
2014.10 BC-02研究報告(第33回JABTS)
2015. 3 BC-02に関する国際学会発表(2015.3 WFUMB 米国 5名で分担し口演発表予定)
多施設研究等
・BC-04 継続中(登録期間1年間延長)
・充実性腫瘍診断基準案作成(BC-01研究ベース)→34回 JABTSで報告予定
- 8 甲状腺用語診断基準委員会 鈴木 眞一
1)GB改訂第3版編集作業
2)ドプラエコーの甲状腺診断基準への取り込み
3)福島における小児甲状腺超音波検査にかかわる支援
4)福島における超音波検査資格講習会への支援
- 9 倫理委員会 森島 勇
理事会からの審議事項がなく、活動はありませんでした。
- 10 利益相反委員会 大貫 幸二
1)平成26年4月1日より利益相反指針が施行開始となった。
2)「学術集会」の演者、「機関誌」の著者については、特に違反の報告はなかった。
3)「役員等の利益相反自己申告書」は対象者187名のうち提出者143名(76%)であった。
4)「役員等の利益相反自己申告書」提出者の中で、COIの申告があった5名については、その状態の判断ならびに助言、指導のため、個人情報の保護に留意し、委員長と委員のダブルチェックで内容を確認した(第33回学術総会時に実施)。その結果、特に問題となる事例はなかった。
5)「役員等の利益相反自己申告書」未提出者については、申告しない権利もあるとの事務局の判断から、提出を促す再連絡はしなかった。
- 11 学術委員会 椎名 毅
研究部会の在り方について検討し、その継続、新規設置の基本方針を定めた。また、それに基づき、27年度の研究部会の設置申請について、その可否を審議した。
- 12 新技術研究部会 椎名 毅
CAD等の超音波画像を用いた新技術開発のための「乳腺超音波研究画像データベース」の整備を行い、最終的に約200例

の症例について、Bモード、カラードプラ、エラストグラフィの画像を整理し、病名、病理組織学的情報を付与したデータベース(CD版)を完成した。

13 フローイメージング研究部会 奥野 敏隆

・研究部会会議

平成26年 5月11日(第32回JABTS パシフィコ横浜 横浜市)

平成26年10月19日(第33回JABTS 別府国際コンベンションセンター)

・造影超音波ワーキンググループ会合

平成26年 5月10日(第32回JABTS パシフィコ横浜 横浜市)

平成26年10月18日(第33回JABTS 別府国際コンベンションセンター)

・研究部会学術活動

JABTSフローイメージング研究部会の本年度の課題は以下の通りであった

1. 乳腺・甲状腺・体表領域超音波フローイメージングの標準化と適正な検査の普及

2. 乳腺をはじめとした造影超音波の臨床応用

乳腺超音波カラードプラ法の標準化と適正な検査法の普及についてはJABTS BC-04のobservational studyが始まり、症例登録が進んでいる(登録期間が2015年6月まで延長された)。用語診断基準委員会、JABTS BCデータセンターと連携して本研究の完遂を目指したい。また、各施設の臨床における現状を報告し、会員同士の情報共有を目的に次のような企画を行った。

「臨床でフローイメージングを如何に利用するか」平成26年5月11日(第32回JABTS パシフィコ横浜 横浜市)

乳腺超音波カラードプラ法および乳腺造影超音波の臨床における活用方法、皮膚科領域、頭頸部そして甲状腺領域におけるフローイメージングについて部会員を中心に報告し、議論を行った。

ソナゾイド乳腺造影超音波の臨床応用に関しては造影超音波ワーキンググループにおいて、一部の部会員、関連メーカーの会員を中心に定期的に議論を行っている。その議論と各施設における臨床成果の報告を目的として次のような企画を行った。

「時間輝度曲線を用いた乳房ソナゾイド造影超音波検査の定量化の試み」平成26年10月19日(第33回JABTS 別府国際コンベンションセンター)

メーカーからの技術的な解説をはじめ、時間輝度曲線の計測、臨床応用について報告し、議論を行った。

また、「乳房造影超音波に関するアンケート」をJABTS会員に対して行っている。ソナゾイドを用いた乳房造影超音波検査が行えるようになって2年半が経過し、広く現状把握を行

い、課題を見いだすことを目的としている。アンケートの結果は第34回JABTSにおいて報告する予定である。

14 検査技術研究部会 尾羽根範員

2014年10月18日～19日に別府市で開催された第33回日本乳腺甲状腺超音波医学会において以下の活動を行った。

1. 研究部会会議(2014年10月18日)

JABTSにおける研究部会のあり方を考慮し、今後、検査技術研究部会の活動を継続するかどうかについて検討した。

2. 研究部会企画(2014年10月19日)

「もやもやする症例について」と題して、小さな腫瘍など良悪性の判断に迷う症例の判読について、フロアの参加者をまじえてディスカッションを行った。学会会期2日目の最後のセッションにもかかわらず、多くの参加者を得て盛況であった。

15 乳がん検診研究部会 角田 博子

用語診断基準委員会により、2014年の春に第3版改訂版が出版された。この改訂に際して、用語診断基準も改訂した。腫瘍、非腫瘍性病変ともに改訂したが、とくに非腫瘍性病変に関しては、乳管、低エコー域、構築のみだれの3つの項目のみ要検査と変更した点が多い。擬陽性を減らすために、多発小嚢胞病変が単独で存在する場合、これまでカテゴリ-3としていたものをカテゴリ-2とし、精査不要とした。

さらにこの精査基準について、英語版を作成し投稿することを企画した。現在英文のnative check待ちの状態、今年度中に投稿予定である。

16 インターベンション研究部会 位藤 俊一

・研究部会会議

平成26年5月10日(第32回JABTS パシフィコ横浜 横浜市)

平成26年10月18日(第33回JABTS 別府国際コンベンションセンター 別府市)

・研究部会企画学術活動

◆JABTS学会誌掲載論文 『誌上ケースカンファレンス：次の一手は』

「高齢者の乳腺嚢胞内腫瘍の診断」

大西 清 先生(第3巻 第1号 2014年1月発行)

「血性乳頭分泌で発見された非腫瘍性病変の診断」

渡邊 良二 先生(第3巻 第3号 2014年7月発行)

◆『第8回ケースカンファレンス—次の一手は—』

平成26年5月10日(第32回JABTS パシフィコ横浜 横浜市)

【症例呈示】

坂本 尚美 先生

『術後鎖骨上及び縦隔リンパ節転移疑い症例』

坂井 威彦 先生

『術前内分泌症例(NEOS症例)』

◆『第9回ケースカンファレンス一次の一手は一』

平成26年10月19日(第33回JABTS 別府国際コンベンションセンター 別府市)

【ミニレクチャー】

五味 直哉 先生

『乳癌の再発/転移病巣に対する針生検』

【症例呈示】

広利 浩一 先生

菊地 真理 先生

『初回の針生検で慢性炎症と診断され、経過観察中に急速に進行した1例』

◆【研究部会報告】

藤田 崇史 先生

『超音波ガイド下吸引式組織生検の診断精度の検討』

(第33回JABTS)

◆『第2回 JABTS乳房超音波ガイド下インターベンション講習会』

平成26年5月10日(第32回JABTS パシフィコ横浜 横浜市)

◆インターベンション講習会 講師ミーティング

平成26年4月20日(聖路加国際病院)

◆乳房超音波診断ガイドライン改訂第3版の第XII章インターベンションの改訂

17 精度管理研究部会 中島 一毅

□ 精度管理研究部会の活動内容

2014年度までに、精度管理研究部会では以下の活動を行った。

①乳房超音波精度管理ファントムの作成と有用性の検証の研究

②超音波診断装置の精度管理の研究

③術前化学療法における超音波診断による早期評価の研究

④背景乳腺の超音波診断に与える影響の研究

⑤エラストグラフィ精度管理の研究

⑥Hands Onによる検査手技の精度管理の研究

以下、各活動に関する業績、活動内容を報告する。

□ 各活動に関する業績、活動内容

a) 乳房超音波精度管理ファントムの作成と有用性の検証

①乳房超音波精度管理ファントムの適切な使用マニュアルを作成した。

②探触子の劣化についての早期に評価できるという有用な研究結果が得られた。

⇒論文化、JABTS学会誌に掲載(和文)。

③現在、新しい超音波診断装置を見据えて新しい精度管理ファントムを作製した。

新ファントムはより簡便に使用でき、かつ、保存が容易となるように工夫されている。現在、委員間で検証実験中である。

⇒今後は、「精度管理ファントム研究部会」として、独立して研究継続の予定。

b) 超音波診断装置の精度管理

精度管理研究班の時代からの継続テーマ。J-STARTでは、検診に関する推奨装置のリストを作成し、JABTS精度管理研究班の名前で、J-START年次白書中に掲載(和文)された。

⇒精度管理研究部会とともにJABTSでの研究は収束する予定。

(各、開発メーカーの社外秘に関与してしまう研究であり、学会としてのリスクも高い)

c) 術前化学療法における超音波診断による早期評価の研究(JABTS BC03)

すでに登録終了し、中央画像判定も3月で終了する予定である。今後、データセンターとともにデータクリーニング、解析を行い、論文化をすすめたい。

データの解析、論文化、付随研究を含めてのデータ管理が必要で、研究班継続が必要である。

⇒「JABTSBC03研究部会」として、独立して研究を継続する予定。

d) 背景乳腺の超音波診断に与える影響

班員によるデータ収集を行い、部会の全体会議事に班員全体により、評価を行った。最終的見解は学会ワークショップ報告の形では、すでにJABTS学会誌に掲載(和文)。

⇒現在、論文化を進めている。

e) エラストグラフィ精度管理研究班

JSUMの教育研修委員会エラストグラフィ小委員会と共同でpractical guidelineを作製し、論文として、JUMに掲載(英文)済み。

JSUM, AIUM, WFUMBとの共同で、WFUMBのガイドラインを作成、UMBに掲載予定。

JABTS, JSUMで作成された内容で2013年のWFUMB Symposium (Sao Paulo),

AIUM lecture (New York), および昨年のJSUM Symposium (Yokohama)で報告した。

⇒今後は、JSUMの教育研修委員会エラストグラフィ小委員会が研究継続するため、JABTSが引き続き関与できるように、「エラストグラフィ研究部会」としての独立申請をおこなった。

f) Hands Onによる検査手技の精度管理の研究班

検査技術の精度管理の精度管理が可能かどうかの研究。

これまで、乳癌検診学会、JABTS総会時に試験的に開催し、データを収集した。別研究(厚労科研費)で作成した新ファントムを使用し、技術評価の可能性を検討中である。

収集データを解析し、次回のJABTS総会時の精度管理研究部

会報告で、発表する予定である。

今後、標準化可能な手技と適切な評価方法を検討するため、他国の方法も参考にしながら、研究を継続したい。

⇒「Hands On研究班」として独立、研究を継続する申請をおこなった。

□ 今後の精度管理研究部会

来年度よりJABTS新体制が構築されるにあたり、本研究部会は収束する予定である。これまでの6研究のうち、継続の必要性が認められたものに関しては、独立した部会としての研究継続をお願いしたいが、すべて新理事長に一任する。

いずれの研究班も最終的に論文の形で世に報告し、乳房超音波医療全体に貢献することも目標とすべきである。

これからのJABTSの発展のため、新たな研究テーマを模索し、着実に進めていきたい。

18 | バーチャルソノグラフィ研究部会 | 中野 正吾

1)平成26年5月11日PM0:00~PM1:30パシフィコ横浜会議センターにて第4回バーチャルソノグラフィ研究部会を開催した[出席者:中野正吾, 植松孝悦, 磯本一郎, 佐竹弘子, 高丸智子, 舛本法生, 二村 学, 榊原雅裕, 山本 滋, 吉田美和(敬称略)]。当研究部会で作成した臨床プロトコル[乳房MRI-detected lesionの検出における超音波fusion技術(Real-time virtual sonography / Volume navigation)の有用性の確認(多施設共同前向きコホート研究)Ver 2]について、部会長より変更点の概略が説明された後、質疑応答が行われた。また本プロト

コルの名称をFUSION 01とすることが承認された。

2)ディスカッション内容を参考に一部プロトコルの変更を行い、5月13日愛知医科大学倫理委員会にプロトコルを提出、7月16日付で承認された。

3)平成26年10月19日AM8:00~PM8:50別府国際コンベンションセンターにて第5回バーチャルソノグラフィ研究部会を開催した[出席者:中野正吾, 植松孝悦, 舛本法生, 山本滋, 高橋麻衣子(敬称略)]。FUSION 01のプロトコル変更点(磁石入りティッシュエキスパンダー留置例は除外, 研究実施期間の訂正)が報告され, 検査手技におけるディスカッションが行われた(Second-look USで検出できたかどうかは, 確証が得られない場合は非検出として扱うことで統一することとした)。本研究会は2年継続を申請すること, 新規入会希望者, 画像評価外部委員について報告が行われた。同日PM2:00よりバーチャルソノグラフィ班シリーズ企画「乳腺画像診断における超音波fusion技術の実際」[超音波fusion技術を知ろう, 使おう, 応用しよう④ FUSION 01 study キックオフミーティング]を開催した。

19 | 甲状腺結節性疾患有所見者率等調査研究部会 | 谷口 信行

本年度は、平成24年度の事業で、精密検査となった対象者について、精査結果についての追跡調査を行い、その報告書を作成した。